

地域支援だより

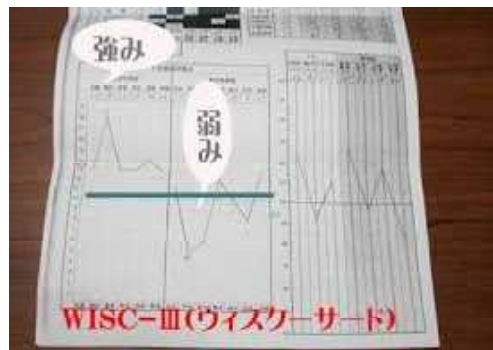
県立南薩養護学校
校外支援係
No. 3

令和3年5月13日

(文責 中菌)

WISC-IIIの分析と指導への活かし方

本人の実態を知っている先生が、検査結果と実態を結びつけて解釈するのが分かりやすいと思いますので、分析の概略と指導への活かし方について述べてみます。



◎ 12の下位検査を分析します。個人内平均値に比べて高いのか低いのかで判断します。

① 「知識」

高い場合

- ・ 知識量を学習や生活へ生かす場面をつくり、できたときにほめる。

低い場合

- ・ 常識や暗黙の了解と思えることも言葉で具体的に教える。

② 「類似」

高い場合

- ・ パターン化した理解や覚え方ができるので、学習面で生かす場面をつくる。

低い場合

- ・ 抽象的な表現では理解しにくいので、具体的な言葉で説明する。

③ 「単語」

高い場合

- ・ ○○博士の称号で頼られることも自信につながる。
- ・ アスペルガーなどの場合、文字通りの解釈をして譲らない場合もあるので、その場にあった行動の仕方を教える。

低い場合

- ・ 言語発達水準が年齢相応に達していない。抽象的な表現では理解しにくいので、具体的な言葉や図や写真で説明すると分かりやすい。

④ 「理解」

高い場合

- ・ 適切な判断ができたことをほめ、自信をもたせる。

低い場合

- ・ 実的な知識が足りないので、社会的な判断が難しい。生活場面での対処法やルールについて説明することが必要。相手の立場を推測できない発言がある場合はSST(ソーシャルスキルトレーニング)も有効。

⑤ 「算数」

高い場合

- ・ 概算する力があるので、生活や学習に生かせる場面をつくり、できたときは褒める。

低い場合

- ・ 文章題の演算決定では足すのか引くのかなどの場面をイメージできにくいので、絵や図で視覚化することが大切。集中力しやすい環境を整える。

* 裏面へ続く。

⑥「数唱」

高い場合

- ・ 言葉で聞いて記憶する力が強いので、他の弱点をカバーするようにする。
- ・ 聴覚過敏も考えられるので、ちょっとした雑音等に注意がそがれて、聞き漏らすこともありがちなので注意を引きつけて話すようにする。太鼓やピストルの音など苦手な音もあるので配慮する。

低い場合

- ・ 話すときは注意を引きつけて、複数の指示は混乱するので、一つずつ、順序よくゆっくり指示を出すようにする。

⑦「絵画完成」

高い場合

- ・ 周囲に気配りができるので、得意なことでクラスに貢献できるようにする。

低い場合

- ・ 間違い探しなどの見分ける作業が苦手なので、間違い探しの本を一緒にしながらゲーム感覚で自信をもたせる。

⑧「絵画配列」

高い場合

- ・ 因果関係が理解できるので、適切な行動ができたらほめる。

低い場合

- ・ 初めての場所とか苦手で、場に合わない言動を取ってしまうことがあるので、校外学習等では、前もって写真等で紹介したり、時系列で活動の順序を説明したりして、見通しをもたせることが大切。

⑨「積木模様」

高い場合

- ・ 位置や形などの情報を生かす力があるので、ものづくり等で自信をもたせる。
- ・ 視覚過敏も考えられるので、集中できるように視覚刺激を減らす手立ても必要。

低い場合

- ・ 持ち物の整理が苦手なので、言葉だけの指示ではなく、お手本を写真で示す。

⑩「組合せ」

高い場合

- ・ イメージする力があるので、このあとどうなるかの予想をさせ、できたときに褒める。

低い場合

- ・ 「部分から全体を見通す力」が弱いので、作品づくりでは完成品を示したり、手順を図で示すことで、見通しがもてる。簡単な(ピースの大きい)ジグソーパズルで図形の構成について練習する。

⑪「符号」

高い場合

- ・ 単純作業で自信をもたせる。

低い場合

- ・ 見て形を写す能力が弱い。板書をノートに写す作業などは苦手なので、書く量を制限する、例えば「先生が赤チョークで囲んだところだけ写す」などの配慮が必要。板書を写真で渡したり、書く作業はワープロで代替したりすることも考慮に入れる。

⑫「記号探し」

高い場合

- ・ 視覚的短期記憶が強いので、見分ける作業で自信をもたせる。

低い場合

- ・ 課題を拡大コピーしたり、小分けにしたりして提示すると、安心して取り組める。眼球運動を鍛えるためにビジョントレーニングも効果的。

参考・引用文献「軽度発達障害の心理アセスメント」～WISC-Ⅲの上手な利用と事例～
日本文化科学社 上野一彦 2005年版